

アンケート結果概要 どんなことが見えてきたのか？

(アンケート目的)

発達障害をもつ本人やその保護者の悩みやニーズ、学校の先生が支援を必要とする生徒に対応する上で課題と感じていることなどを把握し、求められる社会資源について検討し、支援体制を構築するためアンケート調査を実施した。

<本人>

友人、同じ趣味悩みを持つ仲間との交流、相談相手

- (結果)
- ・中学校時代に困った事の上位は「友人関係」や「いじめ」、「学習」「忘れ物が多い事」となり、相談相手の上位は「母親」次に「担任」であった。
 - ・中学校生活を満足するために「仲のいい友達が欲しかった」との回答が上位。
 - ・高校時代に困った事は、「進路」「学習」で、相談相手は「担任」次いで「相談しなかった」が上位であった。
 - ・高校生活を満足するためには「自分に合う進路を見つけることが必要」とほとんどの人が答えている。
 - ・成人期の困っている事は、「自由な時間の過ごし方」や「性格」「職場の人間関係」が上位。
 - ・成人期の欲しい情報は「少しの体調不良を相談できる所」「何でも話を聞いてくれる所」が上位を占めた。
- (考察)
- ・本人同士が趣味や悩みを語れる場、相談ができたり、自立生活スキル、コミュニケーションスキルを勉強できる場所が必要である。
 - ・高校退学者や中卒者へ必要な情報が伝わりやすい仕組み作りが必要である。

<保護者>

情報、学校との連携、子どもの自立に向けて

- (結果)
- ・本人の中学校在籍は通常学級が大半で、次いで特別支援学級、特別支援学校が続いている。
 - ・手帳の持っている人は約半数。
 - ・中学卒業後の進路は全員が進学と回答。進学先は「本人の意思や興味」「学力面」で決定したという回答が上位。

- ・進路決定する際に欲しい情報は「支援体制」「受け入れ状況」「卒業後の進路」。
 - ・進路決定で困った事は「なかった」次いで「生活習慣や社会性等が身に付いていない」「友人関係」が上位。学力面以外を心配する回答があった。
 - ・高校等であった配慮の中身は「保護者への連絡が密にあった」が上位。
 - ・欲しい資源は「自立生活スキルを習得する場」「親の相談先」が上位。
 - ・保護者が本人に伝えたい事は、「困った時に助けてくれる場所や人達がいること。なんでも一人で抱え込まず、助けを求めてもいいんだという事を順番に伝えて行けたらと思います。」という声もあった。
- (考察)
- ・保護者が学校に求めている支援内容は、日々のちょっとした事でも連絡がもらえる事で、高度な支援を求めているわけではない事が分かった。
 - ・保護者や学校が地域や福祉の情報を得るための仕組みづくりが必要。
 - ・学校と保護者の連携のために引き継ぎが重要で切れない支援体制が必要。
 - ・保護者と学校が連携しやすいシステム作りが必要。

<先生>

学校や保護者との連携 専門機関との連携 地域情報

- (結果)
- ・中学校・高校ともに「発達障害やその疑い」のある生徒の在籍が上位を占めた。
 - ・中学校・高校ともに特別支援教育をすすめるためには「人員の増員」「専門家の配置」が上位。
 - ・中学校では、「人員不足」と「保護者の対応で困っている」が上位。
 - ・中学校では課題のある生徒に対して、校内委員会で協議し「学力補充」「別室指導」等支援をしている。
 - ・中高連携で困っている事は、「個人情報への伝え方」「連携方法」が上位。
 - ・高校では、課題のある生徒への支援方法として「校内委員会」で検討し、「放課後に補充」や「欠席時間を配慮」している回答が上位。
 - ・高校が中学校に求める事は「入学予定生徒の情報を早く詳しく知らせてほしい」「高校卒業後の進路も考えて進学をさせてほしい」が上位。
 - ・保護者へ生徒の状況をどのように伝えるかを悩んでいる回答も多かった。
- (考察)
- ・中学校から高校への情報伝達がスムーズに行える仕組みが必要。
 - ・生徒の将来を見据えた進路選びのために、保護者、教育、福祉が情報共有し協議し合える場が必要。
 - ・支援の充実のために教育と福祉の連携が必要。